

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501268		
法人名	筑後保健生活協同組合		
事業所名	虹の家きなっせ		
所在地 (電話番号)	大牟田市大字吉野1364-1		(電話) 0944-59-9540
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成20年5月24日		

【情報提供票より】(平成20年4月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	2人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	木造セメント瓦葺平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,200 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(4月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人親仁会 中友診療所
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を増改築したホームで、住宅街の中に溶け込んだ佇まいである。中に入ると利用者の方々が明るい声で迎えて下さり、笑顔の絶えないホームである。「我が家で家族として暮らす」という事が基本理念の中にあり、利用者と職員の関係も良好でアットホームな環境である。また、散歩が毎日の日課で、近隣の方とも馴染みとなり日常的に挨拶が交わされている。民生員さん達によるホームへのボランティアとしての訪問等があり、地域の方との交流も活発である。医療連携体制の充実により、関連職種による日々の健康管理も細やかに行われている。事業所の質の向上のために、職員のスキルアップに力を入れており、資格習得の為の勉強会に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、緊急時の避難経路であるウッドデッキに鉢植えを置いていた事を指摘され、早速植木鉢を移動させる事でスムーズに避難経路として活用できるよう改善に取り組んだ。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員に配布し、2人一組で評価票を記載し最後に管理者と主任で取りまとめが行われている。自己評価票に記載していく中で、事業所の質の向上に向けての取り組み状況等の再認識がなされている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の中では事業所の現状報告に加え、事業所の方からサービスの向上に向けての相談や問題提起を行い、それについてのアドバイスを受けている。今回の外部評価についても、自己評価・外部評価の結果ともに報告をするようにしている。これまでは市の職員の参加はなかったが、前回の会議から参加されるようになった。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>利用者の状況報告や年間行事計画等を記載した会報は、直接家族の方に渡すようにしている。金銭面では基本的に現金は預かり制にはしておらず、面会に来ていただくためにも、直接支払いに来ていただいている。緊急時や必要な場合には、電話で家族に報告や相談をするようにしている。家族からの意見・苦情が直接は言いにくい場合は、あんしん介護相談員を通して言うて頂くようにしている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当時は地域の方に受け入れも困難な状況であった。現在は、地域の夏祭り参加にはホーム専用の椅子と TENT を用意して頂いたり、ボランティアとして民生員さんによる庭や畑に草取り・老人会の方々の方々のマジックショー等の協力を頂いている。また、ホーム前の道路は通学路になっており、小学生が立ち寄りて賑やかなひと時を過ごすことも多くなり、地域との交流を積極的におこなっている。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「我が家で家族として暮らす」を理念として掲げているが、地域密着の理念の記載がない。	○	既に、地域に密着したホームであるので、理念の中にも地域との関係性についての記載を盛り込まれることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はわかりやすい場所に掲示され、日常的に話し合いを行い、月一回の職場会議の際必ず理念に触れられており、全職員で理念を共有し実践していくよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩を日課としており、近隣の方との挨拶・会話を通して顔馴染となり、散歩の途中の休憩所として庭を開放してもらったりしている。地域の夏祭りでは、利用者の為の椅子やテントを準備していただき迎えて頂いている。老人会から、マジックショーやクリスマス会の慰問を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的は、全職員が「介護サービスの質の向上」という事を理解しており、自己評価の作成も全員で取り組んでいる。外部評価の結果については、運営推進会議でも報告しており、家族の訪問時にも見て頂くようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、事業所の現状報告に加え、事業所から問題提起した事について家族会や民生員・あんしん介護相談員等からアドバイスを受けており、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する会議や研修会には参加している。相談事がある時には電話連絡したり、場合によっては訪庁するようにしている。これまで、市の担当職員の運営推進会議への参加はなかったが、前回から参加して頂くようになり、連携が取りやすくなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は市や社協が開催する研修会に参加し、制度について理解しているが、他の職員は学ぶ機会が設けられていない。家族等への情報提供も充分には行なわれていない。	○	現在必要な方はいないが、家族への啓蒙ができるようパンフレットを準備したり、学習会を行い制度の理解を深めるような取組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	会報を年に3～4回発行しており、家族の面会時に手渡すようにしている。現金の預かり制度を採っておらず、直接支払いに来て頂きその時に報告するようにしている。また、利用者の状況報告や相談事は必要に応じて電話連絡をする事で家族と密に連絡を取るようになっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な要望等は、面会時に職員に話される事が多い。家族が直接言いにくい場合にはあんしん介護相談員を通されるようお願いしているが、できるだけ意見等が直接職員に言える様な雰囲気作りに努めている。また、外部評価の結果等は報告している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑える為にも、休みの希望は応じるようにし、働きやすい職場環境作りに努めている。離職がやむをえない場合には、前任者と新人が一定期間一緒に関わり利用者や顔馴染の関係が作れるようにしている。家族には新人の紹介を兼ねて口頭で伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時の面接では、本人の人柄を重視している。現在20歳代から60歳代の男性・女性が勤務している。職員の個々の能力を発揮できる場面に多く関わってもらい、生き生きと働ける環境作りをしている。職員のスキルアップにも力を入れ、資格習得の為の勤務調整にも配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部で開催される人権教育の研修会や学習会に参加し報告書を作成することで、参加できなかった職員も共有できるような体制作りをしている。利用者に対しても、日頃から「人生の先輩」として尊重した態度で接するよう意識づけしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのための研修会への参加を促したり、資格習得の為の勤務調整を行なうよう配慮している。職員もまた、積極的に学習会等への参加ができていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと相互訪問を行っており、今後も機会を持ち継続していきたいと考えている。個人的にも認知症ケアなどを通して、同業者との交流や情報交換ができています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの紹介で入居される事が多く、その場合、顔馴染みになってもらえるよう何度も面会に行くようにしている。入居前には家族と共に見学に来て頂き、その都度本人や家族から「好きな事・得意な事」を伺い、それを基に安心した生活が送れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中から信頼関係を作り上げるように心がけており、利用者は人生の先輩であるという考えを全職員が共有している。また、普段から一緒に台所仕事や野菜作りをしている中で細かい事を教えてもらい、日々学ぶ事が多い。できる事を一緒に続けながら穏やかな生活ができるよう場面作りをしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れたアセスメントを行い、本人や家族から生活歴や習慣、希望や特技等の情報収集をしている。日頃は日常会話から利用者の希望や意向を把握し、意思の疎通が困難な方はコミュニケーションの反応を見ながら思いを汲取り、家族から話を聞き本人の意向に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや本人、家族の希望や意向を基に、日頃の状況を見ながら職員全員がプラン案を作成し提出する。ケアマネージャーが全員の意見を取りまとめ、職場会議で全員で検討して作成している。毎月の会議で一人ひとりのモニタリングを行なっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職場会議で意見を出し合いモニタリングや検討を行い、3ヶ月ごとにプランの更新を行なっている。また、心身の状態に変化が生じた時は、家族と相談して見直し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて外出や外泊は積極的に勧め、遠方からの家族の面会には、食事を提供して宿泊も受け入れている。また、受診の際には事前に医療機関へ電話で日頃の身体状況を連絡し、医療機関からの送迎を利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援診療所と連携し24時間の健康管理を行い、受診や往診・訪問診療を受けている。また、利用者や家族の希望する病院への受診や緊急時の関連病院への入院等には、柔軟に対応できるよう備えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前に家族に説明し、重度化して医療措置が必要になってから主治医・家族と話し合い具体的な方針を定め、同意書を取り交わすようにしている。これまでに終末ケアを行なった経験はあるが、今後も学習し重度化に備える研修を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目上の方としての対応を心がけ、言葉づかいに気をつけている。入浴やトイレ介助には特に気を配り、本人に負担をかけないようにさりげない援助をしている。個人の記録などは家族には開示するが、他者の目に触れないようにきちんと保管し管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・散歩・レクリエーションなどの1日の大まかな取り決めはあるが、利用者のペースや希望に沿ったそれぞれの快適な過ごし方ができるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて野菜の準備や調理・後片付けを分担し、職員と共に食事作りを行なっている。利用者の好みや希望を献立に取り入れ野菜中心の食事を和やかにゆったりと楽しんでいる。天気の良い日はウッドデッキでのランチも楽しめるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できるように準備し利用者の希望を取り入れ身体状況を見ながら入浴介助を行なっている。トラブルがないように入浴の順番や組み合わせに気を配り、入浴を嫌がられる方にはタイミングを見ながら声かけし快適に入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事や好きな事を把握し台所仕事や掃除・洗濯物たたみ等興味のある事を職員と共にこなしている。近所の方とのふれあいのある毎日の散歩も楽しみである。また季節ごとの行事や誕生会、家族との温泉旅行などを実施し写真を残している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は、地域の方との交流の場となり日課となっている。おやつ持参で散歩に出かけ近所の家のご好意で庭を開放してもらい休憩している。買い物等の希望には随時対応し、家族にも外出や食事、外泊などの協力をお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関をはじめ全てオープンにしており、家族の面会も自由である。一人で屋外に出かけるような方はいないが、ホームのすぐ前はJRの線路で特急列車も走り危険であるため、常時見守りを行なっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、年に2回業者の立会い協力で消火・非難訓練を実施している。運営推進会議にも提案して参加を呼びかけ地域の方の参加協力を頂いている。2箇所の避難場所を確保し、利用者にも散歩の際に知らせている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れた献立で食事を提供し、摂取量を記録している。カロリー計算はしていないが、血液検査と月2回の体重測定で健康管理を行い、食事が摂れない時は主治医の指示を受けている。食事とティータイムの水分摂取に心がけ、居室でも飲めるようにしている。		
て					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改築された共有空間は、玄関・食堂・台所浴室トイレ等もコンパクトな造りで我が家に居るような雰囲気があり、畳の間もある。新築の居室棟の間はウッドデッキになっていて、テーブルや椅子、季節の鉢植えの花が置かれ、カフェテラスのようでくつろぎの場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は畳の間とフローリングの2タイプがあり、それぞれ家族によりベッドや馴染みの家具、テレビなどが持ち込まれている。個性に合わせて絵画教室の作品や花などが飾られ、落ち着いて暮らせるように工夫されている。</p>		